

大阪市立長吉東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力学習状況調査において、本校児童の平均正答率は、大阪市をおよそ15ポイント下回っている。また、小学校学力経年調査の正答率が市平均の7割に満たない児童の割合は30～40%であり、下位層が多い。これまで、児童の表現する力がつくよう意識して授業を工夫してきた。また、よくわかる授業を目指してICTを活用してきた。学力向上支援事業を活用して外部講師を招聘し、授業づくりを進めてきた。しかし、依然として学力が本校の大きな課題となっている。
- 家庭的にも不安定な家庭が多い。愛着障がいと思われる児童、虐待等が疑われる児童が少なくない。ささいなことから気持ちの折り合いがつけられず、教室を飛び出したり、他の児童とトラブルになったりしている。そのため教職員が児童に寄り添い、指導を行っている。
- 不登校児童が多いことも課題である。担任が丁寧に家庭へ連絡している。解消に向け関係機関と連携しているが、しない現状がある。また、学校の授業以外に全く勉強をしていない児童の割合が高い。約27%に達し、全国平均の5倍である。そのため、放課後学習や週末スタディの取り組みを行っている。
- 教職員全体で児童にかかわり、児童が頑張っていることやできていることを褒めている。また、一人一人が活躍できる場を設定している。その成果もあり小学校学力経年調査の「自分には、よいところがあると思いますか」の質問項目で、肯定的回答の割合が高まっている。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。

R5 12.5% R6 14.3% R7 (33.3%)

- 令和7年度の全国学力学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。

R5 89.2% R6 96.2% R7 94.3%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について肯定的に答える児童の割合を令和3年度より5%増加させる。

R3 58.8 R5 61.6 R6 84.6 R7 88.6

- 令和7年度の小学校学力経年調査の平均正答率7割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より1ポイント減少させる。

総合正答率合計 大阪市平均の7割以下の児童の割合

(R3→R7) 6年41.0→34.8 5年33.3→29.3 4年35.8→39.3 3年32.1→45.6

全教科の平均正答率が7割以下の児童の割合

(R3→R7) 6年76.9→78.2 5年81.6→73.2 4年80.0→71.4 3年73.7→65.0

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度経年調査の「読書は好きですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。 R4 6年生70.8 R5 6年生56.1 R6 6年生78.8 R7 6年生 63.6

- 令和7年度 児童質問「授業の中で学習者用端末を活用し学習している」の項目について高学年は「週1回以上」と答える児童の割合を90%以上にする。

(参考) 6年生 (全国学テ) R4 39.6 R6 52.0 R7 68.6

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。

R5 78.5% R6 81.5% R7 72.8

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

R5 73.0% R6 74.8% R7 73.6

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。

R4 32.0 R5 39.9 R6 33.9 R7 37.9

○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

平均正答率 対市比

R6 5年80.0 4年81.8 3年71.0

R7 6年79.5 5年81.2 4年74.5 (3年 82.2)

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を78%以上にする。

R5 69.5 R6 87.8 R7 64.9

【学びを支える教育環境の充実】

ICTの活用に関する目標

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。

(教育委員会事務局が定める学校行事等ICT 活用が適さない日数を除く)

R6 0% (参考)R6 11月の平均活用率 51.1%

R7 (11月) 5.9% (参考)R7 11月の平均活用率 63.1%

教職員の働き方改革に関する目標

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を95%以上にする。

R6 96.7% R7 2月まで 10日以上 82.7% 8日以上100%

3 本年度の自己評価結果の総括

本校の子どもたちが安心してこの学校で学んで成長することができるように様々な取り組みを行ってきた。本校では「体験を通して学ぶ」「楽しく学ぶ」ことを大切にしてきた。年度目標の数値に届かなかった項目もあったが、年を追うごとに向上している指標もあり、本年度は目標をおおむね達成できたといえる。年度当初に策定した具体的な取り組みを着実にやってきた結果である。

子どもたちに確かな学力と体力をつけることを目標にして、教職員でよく話し合っ取り組んできた。しかし、学力については依然として厳しい実態がある。本校児童の平均は大阪市の平均を大きく下回っている。引き続き国語科を中心に学力向上のための取り組みを続けていきたい。また、体力についても課題がある。体力合計点平均は男女ともに全国の平均を上回っているものの、種目によっては平均を大きく下回るものがある。

今後も児童の自尊感情を高めていきたい。本校の実態に合わせた取り組みを継続して学力と体力を向上させたい。

中期目標に対する自己評価

安全・安心な教育の推進

不登校児童の改善の割合を毎年高めていくことができた。目標を達成した。

全国学力学習状況調査「人の役に立つ人間になりたいですか」の項目、肯定的に答える児童の割合を毎年80%以上にすることができた。目標を達成した。

未来を切り拓く学力・体力の向上

令和7年度の全国学力学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について肯定的に答える児童の割合を令和3年度より5%増加させることができた。目標を達成した。

小学校学力経年調査の平均正答率7割以下の児童を令和3年度より1ポイント減少させることについては、6年生は達成できなかったが、3.4.5年生は目標を達成した。

学びを支える教育環境の充実

「読書は好きですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を70%以上にすることはできなかった。

「授業の中で学習者用端末を活用し学習している」の項目について「週1回以上」と答える児童の割合を90%以上にすることはできなかったが、毎年増加させることができた。

(様式2)

大阪市立長吉東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向①、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学年の実態に合わせた、自尊感情を高める取り組みを行う。()</p>	B
<p>指標 児童ががんばっていることやできていることなどを認め合う場、一人一人が活躍できる場を設定する。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向②、豊かな心の育成】</p> <p>違いを認め合う集団の育成を行う。()</p>	B
<p>指標 車いす体験・盲導犬体験・アイマスク体験・発達障がいについての学習など、障がいについて学ぶ体験活動を全学年で実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 各学年でいいところさがしを終わりの会で行ったり、定期的にお互いを認め合う場を設けたりして、学年に合わせた取り組みを行った。</p> <p>② 1・2年生は手話体験、3年生は盲導犬体験、4年生は車いす体験、5年生はアイマスク体験、6年生は発達障がいについて学習を実施した。</p>
次年度への改善点
<p>① 各学年でお互いを認め合う場を設けられるように計画し、実態に合わせて微調整したり、別の取り組みを取り入れたりする。</p> <p>② 来年も学校で系統立てて計画的に体験活動を実施する。</p>

大阪市長吉東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を78%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童の読み取る力を高める授業を創造する。 ()</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 児童の読み取る力がつくように意識して授業を創造し、年間1人1回以上研究授業を行う。</p>	B
<p>取組内容② 【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>運動に親しみ、体力をつける。 ()</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 学習カードやデジタル教材などを効果的に使って、体育の授業を工夫する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 年間を通して、計画的に研究授業を行うことができた。講師の方に来てもらって研修を行い、児童の実態に合わせて家チャートなどの思考ツールを用いて授業を行った。</p> <p>② なわとびカードやかけ足カードなどの学習カードを使用することで、児童一人ひとりが目標を持って活動に取り組むことができた。NHK for school の動画を効果的に活用した。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 次年度も、読み取る力が高まるような指導法の研究を継続する。今年度使用した教材や掲示物を、学校全体で共有していく。</p> <p>② なわとび週間やかけ足週間など、次年度も学習カードを活用して学校全体で取り組んでいく。デジタル教材の効果的な使い方を、さらに考えていく必要がある。</p>	

大阪市立長吉東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICTの活用に関する目標】</p> <p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。(事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標】</p> <p>○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 95%以上にする。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 6、教育 DX の推進】</p> <p>児童の学習者用端末の活用を推進する。()</p>	B
<p>指標・研修を年 3 回以上行い、教員の ICT 活用能力を向上する。</p> <p>・週に 3 回以上、学習者用端末を活用する。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>働き方改革を推進することで、人間性や想像力を高め、児童に対して効果的な教育活動を行うことができるようにする。()</p>	B
<p>指標・ゆとりの日を週に 1 回実施する。</p> <p>・教員一人当たりの、一か月平均時間外勤務時間(累計)を校種別平均と比較する。2 月末の時点で大阪市の平均より、少なくなるようにする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 研修について、「新転任者向け」「情報モラル教育」「学習者用端末活用交流会」の計 3 回実施した。学習者用端末について、下記の通り、平均して週に 3～5 回活用できている。</p> <p>低学年…心の天気、タブレットドリル、Teams、らっこたん、SKYMENU(生活科)、Kahoot!(生活科)</p> <p>中学年…心の天気、調べ学習、Kahoot!(理・社・英)、スクラッチ、パワーポイント、Canva</p> <p>高学年…心の天気、調べ学習(各教科・自主学習)、カフト(算・英)、SKYMENU(国・算・社)、教科書会社製デジタルコンテンツ、クラウド型ファイルサーバ(手本等の配信)</p> <p>② 長吉東小は 22 時間 35 分で大阪市平均は 22 時間 10 分である。目標を達成できていないが、昨年度比較で改善が進み、二学期までは目標達成水準で推移していた。おおむね達成といえる。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 授業、授業外を問わず、学習者用端末を活用できる場면을模索する。学習者用端末に限らず、教育 DX の推進に向け、ICT 機器の活用方法について、職員同士で情報交換できる機会を増やす。</p> <p>② 次年度は、さらに時間外勤務時間が減るよう、電話受付終了時刻と退勤時刻を早める。</p>	

令和 7 年度 学校関係者評価報告書

大阪市長 長吉東小 学校協議会

1 総括についての評価

学校は児童の自尊感情を高めることをめざして様々な体験活動を企画し、実施していた。引き続き魅力ある学校づくりを推進してほしい。学力テストの結果は多くの教科で大阪市平均を下回っている。長吉東小学校の児童の学力には今なお大きな課題があると認識し、学力向上の取り組みを継続して大阪市平均に近づいていくようにしてほしい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

安全・安心な教育の推進 年度目標 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%以上にする。小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。

「学校へ行くのは楽しい」「自分にはよいところがある」とする、肯定的回答児童の割合は残念ながらわずかに目標に達しなかったが、高い数値をしめしている。学校が自己肯定感を高める取り組みを継続してきた成果が表れている。また、学校は虐待を受けている児童への対応や不登校児童への対応で関係機関とよく連携している。

未来を切り拓く学力・体力の向上 年度目標 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な回答児童の割合を 35%以上にする。小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 78%以上にする。

話し合い活動は活発で、目標を達成している。しかし、国語の平均正答率については、上昇した学年もあれば、下降している学年もあり、引き続き学力向上の取り組みが必要である。運動に対する児童の意識は、今年度は昨年度より低下してしまい、目標に達していない。肥満傾向の児童が多いこともあり、児童の健康への意識を高めてほしい。

学びを支える教育環境の充実 年度目標 授業日において児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の 50%以上にする。年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 95%以上にする。

ICT 機器を使った取り組みは年々活発になっている。情報モラルを学ぶ実践も多い。教職員がゆとりを持てるようにしていることがわかった。

3 今後の学校園の運営についての意見

引き続き魅力ある学校づくりを推進してほしい。
 学力テストの結果は、どの学年も多くの教科大阪市平均を下回っているので、学力向上の取り組みを継続してほしい。
 不登校や虐待を受けている児童への支援を続けてほしい。
 様々な背景を持つ児童が安心して学ぶことができるようにしてほしい。